

令和2年度
沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科
(修士課程)
学生募集要項

◆ 9月試験 (比較芸術学専攻のみ)

- ◇出願期間
令和元年7月29日(月)～8月5日(月)
※8月5日郵送発信局消印有効
- ◇試験日程
令和元年9月7日(土)～9月8日(日)
- ◇合格発表
令和元年9月17日(火) 午前10時
※学内掲示及び本学ホームページ
- ◇入学手続
令和元年9月18日(水)～9月25日(水)
※窓口受付時間：午前9時～午後5時(土・日、祝日を除く)
郵送の場合は9月25日(水)午後5時までに必着のこと
- ◇障がい等を有する等の志願者との事前相談の申し出期限
令和元年7月5日(金) 午後5時まで

◆ 2月試験 (全専攻)

※比較芸術学専攻のみ、9月試験で入学手続きを完了した者が定員に満たなかった場合、試験を実施する。

- ◇出願期間
令和2年1月6日(月)～1月14日(火)
※1月14日郵送発信局消印有効
- ◇試験日程
令和2年2月1日(土)～2月2日(日)
- ◇合格発表
令和2年2月10日(月) 午前10時
※学内掲示及び本学ホームページ
- ◇入学手続
令和2年2月11日(火)～2月18日(火)
※窓口受付時間：午前9時～午後5時(土・日、祝日を除く)
郵送の場合は2月18日(火)午後5時までに必着のこと
- ◇障がい等を有する等の志願者との事前相談の申し出期限
令和元年11月5日(火) 午後5時まで
- ◇長期履修学生制度に関するお知らせ(予告)
令和2年度より、長期にわたる教育課程の履修(長期履修)学生制度を導入する予定である。

令和元年5月

沖縄県立芸術大学

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4
電話 098-882-5058
<http://www.okigei.ac.jp/>

目 次

I	募集人員	1
II	出願資格	1
III	選抜方法	2
IV	試験会場	2
V	試験日程	2
VI	出願手続き	5
VII	合格発表	6
VIII	入学手続き	6
IX	過去の試験問題の公表	7
X	入試情報の開示について	7
XI	外国人志願者に対する特別措置	7
■	大学院案内	8
■	本研究科で取得できる免許状及び資格	10
■	大学院研究室一覧	11
◆	入学願書等提出書類	巻末綴り込み

沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科 (修士課程)

I 募集人員

専攻	専修	募集人員
生活造形専攻	工芸専修 デザイン専修	9
環境造形専攻	絵画専修 彫刻専修	6
比較芸術学専攻	比較芸術学専修	※1, 2 3 (社会人含む)

※9月試験において定員3名を充足しなかった場合、2月試験を実施する。

(9月試験において定員を充足した場合は、2月試験を行わない。)

※2月試験の実施の有無及び募集人員については、9月末日までに本学ホームページにて知らせる。

※入学者が募集人員に満たない場合、二次募集を行う。二次募集の詳細については本学ホームページにて知らせる。(http://www.okigei.ac.jp/)

※令和2年度より、長期にわたる教育課程の履修(長期履修学生)制度を導入予定である。
(長期履修学生制度について、詳細については決定次第ホームページ等で公表します。)

II 出願資格

1. 一般選抜

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び令和2年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- (9) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

2. 社会人選抜(比較芸術学専攻)

一般選抜の出願資格に該当し、かつ本研究科入学時において、大学卒業後2年以上経過した者

※注意事項

○9月試験

※障がい等を有する等の入学志願者は、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性があるため、出願の前にあらかじめ(令和元年7月5日まで)教務学生課に申し出ること。

※上記(9)の適用を受けようとする者は、所定の出願書類(審査料を除く)の他、これまでの学習研究内容の詳細を説明する資料を添えて(令和元年7月5日までに)教務学生課に申し出ること。

○2月試験

※障がい等を有する等の入学志願者は、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性があるため、出願の前にあらかじめ(令和元年11月5日まで)教務学生課に申し出ること。

※上記(9)の適用を受けようとする者は、所定の出願書類(審査料を除く)の他、これまでの学習研究内容の詳細を説明する資料を添えて(令和元年11月5日までに)教務学生課に申し出ること。

Ⅲ 選抜方法

入学者の選抜にあたっては実技（含提出作品）、提出論文（又は研究計画書）、筆答試験、面接等の選抜試験及び成績証明書、履歴書等の各資料を総合して判定する。

Ⅳ 試験会場（集合場所及び作品提出場所）

専攻名	専修名	集合場所及び作品提出場所	連絡先
生活造形専攻	工 芸 専 修	首里崎山キャンパス 工芸棟 1 F	染織学科室 TEL098-894-6255
	デ ザ イ ン 専 修	首里崎山キャンパス デザイン/中央棟 2 F	デザイン学科室 TEL098-882-5072
環境造形専攻	絵 画 専 修	首里当蔵キャンパス 美術棟 1 F	絵画学科室 TEL098-882-5049
	彫 刻 専 修	首里崎山キャンパス 彫刻棟 2 F	彫刻学科室 TEL098-882-5046
比較芸術学専攻	比 較 芸 術 学 専 修	首里金城キャンパス 附属研究所棟 1Fビル	芸術学学科室 TEL098-882-5070 附属研究所事務室 TEL098-882-5040

※学科室への電話が通じない場合は、教務学生課（TEL098-882-5080）までご連絡ください。

Ⅴ 試験日程

○9月試験

専攻	専 修	日 時		試 験 内 容
比 較 芸 術 学 専 攻	比較芸術学	7月29日 (月)	郵送のみ	研究計画書（提出） *提出方法 所定の様式を使用し、その他の出願書類に同封して郵送すること。
		8月5日 (月)	締切： 令和元年 8月5日の 消印有効	
		9月7日 (土)	10:30 ～12:00	筆答試験Ⅰ（語学） 英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、日本語小論文のうち1科目を選択すること。 *外国人志願者は「日本語小論文」を選択すること。 *「日本語小論文」は外国人志願者のみ選択可能。 *社会人選抜の受験者は「筆答試験Ⅰ（語学）」を免除する。
			13:30 ～15:00	筆答試験Ⅱ（専門科目） 美学・芸術学、美術史、琉球文学または日本文学のうち1科目を選択すること。
9月8日 (日)	10:00 ～12:00	口述試験（面接）		

○2月試験

専攻	専修	日 時		試 験 内 容
生活造形専攻	工芸	2月1日 (土)	8:45 ~9:30	作品提出 (1)作品2点 (2年以内に制作したものに限り。) (2)ポートフォリオ
			9:30 ~12:30	共通筆答試験 「小論文」 筆記用具持参
			13:30 ~16:30	実技試験 ※各研究室別の問題を課す。 染 図案作成に必要な用具持参 織 織物デザインと織物設計に必要な用具持参 陶磁器 用具等は本学で用意する。 漆工 素描用具・色鉛筆 (12色以上)持参
	2月2日 (日)	9:00~	面接 (面接終了後作品搬出)	
	デザイン	2月1日 (土)	9:00 ~9:45	作品提出 (1)作品2点 (2年以内に制作したものに限り。) *卒業制作/論文等含む (2)ポートフォリオ
			10:00 ~17:00	実技 *製図用具一式・彩色用具一式持参のこと。 *各研究室別の問題を課す。
2月2日 (日)		10:00 ~12:00	「小論文」 筆記用具持参のこと。	
		13:00 ~17:00	面接 (面接終了後作品搬出)	
環境造形専攻	絵画	2月1日 (土)	9:00 ~12:00	<p>作品提出</p> <p>油画 (1) 平面作品 2点 100号以上 (2) 平面作品でないものについては審査に見合う内容のものを提出すること。 ・版画作品、10点以内 (額装は3~4点) ・写真作品、20点以内 (サイズは問わない) ・インスタレーションなどの立体表現等 (但し、提出はファイル、ビデオによる記録。プランニング、ドローイング、マケット等でよい。)</p> <p>(3) 作品資料 ・アルバム又はファイル1冊 *記録、エスキース、プランニング、コメント、ビデオ (5分以内) などを含む。 *作品提出は、(1)と(3)、又は(2)と(3) いずれの場合も可とする。 * (1)と(2)は1年以内に制作したものに限り。</p> <p>(4) レポート (大学院での研究テーマに関すること及び本学志願の理由について。A4用紙、ワープロ打ち1,200字以内、作品ファイルに含めて提出。)</p> <p>日本画 (1) 作品 2点 50号以上 1年以内に制作した未発表のものに限り。 (2) 作品資料 (アルバム又はファイル1冊) (3) レポート (大学院での研究テーマに関すること及び本学志願の理由について。A4用紙、ワープロ打ち1,200字以内、作品ファイルに含めて提出。)</p> <p>* 作品は本人立会いのうえ当日指定された場所に搬入すること。</p>

※ 試験が午後にわたるときは、弁当を持参すること。

専攻	専修	日 時		試 験 内 容
環 境 造 形 専 攻	絵画	2月1日 (土)	13:00 ～16:00	実技（素描又はドローイング） 描画用具（自由）は持参のこと。 用紙は本学で用意する。
		2月2日 (日)	10:00～	面接
			13:00 ～16:00	作品搬出
	彫刻	2月1日 (土)	9:00 ～15:00	作品等提出 (1) 彫刻1点（1年以内に制作したものに限り） (2) (1)の作品の制作意図（A4用紙、ワープロ打ち 1,000字程度） (3) 作品写真集1冊 過去に制作した作品の写真をファイルしたもの。 (在学中の課題作品も含む) *作品は本人立会いのうえ搬入すること
		2月2日 (日)	9:00 ～12:00	実技（ドローイング） 用紙は本学で用意する。画材用具等は自由
			13:00 ～16:00	面接 (面接終了後作品搬出)
比 較 芸 術 学 専 攻	比較芸術学	1月6日 (月)	郵送のみ 締切： 令和2年1 月14日の 消印有効	卒業論文（コピーでも可）提出 又は志願する研究分野（美学・芸術学、美術史、民族 芸術文化学）に関する論文（美学、芸術学、日本美術史、 東洋美術史、西洋美術史、文化学、民族芸術学、琉球文 学、日本文学等に関する論文を含む）を提出する。 12000字以上。提出された論文は返却しない。 *提出方法 その他の出願書類に同封して郵送すること。 (添付の封筒に論文が入らない場合は、出願書類につい ては所定の封筒を使用し、論文のみ任意の封筒を使用し、 表に「大学院比較芸術学専攻試験用提出論文」と朱書き して、それぞれ速達・書留にて提出のこと。)
		1月14日 (火)		
	2月1日 (土)	10:30 ～12:00	筆答試験（語学） 英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、日本語小 論文のうち1科目を選択すること。 *外国人志願者は「日本語小論文」を選択すること。 *「日本語小論文」は外国人志願者のみ選択可能。 *社会人選抜の受験者は「筆答試験（語学）」を免除する。	
		13:30 ～15:30	口述試験（面接）	

※ 試験が午後にわたるときは、弁当を持参すること。

受験上の注意

- 1 試験当日は開始時刻の30分前までに所定の場所に集合すること。集合時間に遅れた者の受験は原則として認めない。やむを得ない事情により遅刻した場合はただちに係員に申し出ること。
- 2 提出作品の搬入・搬出について、運送業者を利用するなど特別処置を必要とする受験者は、事前に各研究室に相談すること。
- 3 試験当日の受験生は指定された場所に集合し、以後はすべて係員の指示に従う。
- 4 受験の際には常に受験票を携帯すること。万一、受験票を忘れたり紛失した場合は速やかに係員に申し出ること。
- 5 試験が午後にわたるときは、弁当を持参すること。
- 6 試験内容に関しての電話による問い合わせには応じないが、緊急を要する連絡はこの限りではない。

VI 出願手続き

1. 出願期間

- 9月試験 令和元年7月29日（月）から同8月5日（月）まで
 ＊出願はすべて**郵送（書留）**によるものとする。（普通郵便及び直接持参は受理しない）
 ＊8月5日（月）までの**発信局消印があるものは有効とする。**
- 2月試験 令和2年1月6日（月）から同1月14日（火）まで
 ＊出願はすべて**郵送（書留）**によるものとする。（普通郵便及び直接持参は受理しない）
 ＊1月14日（火）までの**発信局消印があるものは有効とする。**

2. 出願書類等

書 類	様式・書式	記 入 要 領 等
①入学願書・ 受験票・写真票	本学所定の様式 (綴込用紙)	氏名は戸籍に記入されている文字を楷書で正しく記入すること。 (以下の書類も同様に) 受験票・写真票には上半身、無帽、正面、出願前3ヶ月以内に撮影した同一写真(縦4cm×横3cm)を貼り付けること。
②履歴書	本学所定の様式 (綴込用紙)	本学所定用紙に必要な事項を記入すること。
③入学考査料領収書 ・領収書原符	本学所定の様式 (綴込用紙)	入学考査料(30,000円)の納入方法は、 郵便局が発行する普通為替証書(指定受取人欄、払渡局欄等一切記入しないこと) とする。 「領収書・領収書原符」の納入義務者欄に住所・氏名を記入し、 普通為替証書と一緒に提出すること。
④卒業証明書又は卒業見込証明書 (大学又は最終学校)	様式随意	出身大学等が証明し、厳封したものを提出すること。 (本学の卒業者及び卒業見込者は不要)
⑤成績証明書	様式随意	出身大学等が証明し、厳封したものを提出すること。 (本学の卒業者及び卒業見込者は不要)
⑥受験票交付用封筒	本学所定の様式 (綴込封筒)	郵便番号・住所・氏名を明記し、362円切手を貼ること。
⑦研究計画書	本学所定の様式 (綴込用紙)	※比較芸術学専攻 9月試験受験者のみ提出 本学所定用紙に必要な事項を記入すること。
⑧論文提出	様式随意	※比較芸術学専攻 2月試験受験者のみ提出 論文提出は、その他の出願書類に同封して提出のこと。なお、表に「大学院比較芸術学専攻試験用提出論文」と朱書きすること。 添付の封筒に論文が入らない場合は、出願書類については所定の封筒を使用し、論文のみ任意の封筒を使用し、表に「大学院比較芸術学専攻試験用提出論文」と朱書きして、それぞれ速達・書留にて提出のこと。

⑨その他の書類 (住民票抄本)	様式随意	県内居住者は入学料の額が軽減されるので、令和元年4月1日前から県内に住所を有することを証明する本人か配偶者、又は一親等親族の住民票抄本を必ず提出すること。 (Ⅷ入学手続き3納付金(1)入学料参照)
--------------------	------	---

上記①～⑨までの書類(⑦～⑨は要提出者のみ)及び入学考査料30,000円(普通為替証書)を所定の封筒(綴込)を用い書留郵便の郵送によって提出すること。

*願書等の受理後はいかなる事情があっても書類の変更、考査料の払戻はしない。

3. 入学願書等提出先 沖縄県立芸術大学教務学生課
〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4 TEL 098-882-5058

4. 受験票交付

- 9月試験 願書受付期間内に必要な出願書類を提出し、入学考査料を納入した者に受験票を郵送によって交付する。
*受験票が、令和元年8月13日(火)までに送達されていない時は、直ちに教務学生課に連絡のうえ、書留郵便受領証をもって申し出ること。
- 2月試験 願書受付期間内に必要な出願書類を提出し、入学考査料を納入した者に受験票を郵送によって交付する。
*受験票が、令和2年1月21日(火)までに送達されていない時は、直ちに教務学生課に連絡のうえ、書留郵便受領証をもって申し出ること。

Ⅶ 合格発表

- 9月試験
令和元年9月17日(火) 午前10時予定 首里当蔵キャンパス管理棟前及び本学ホームページ
*合格者には発表と同時に文書で通知し、入学手続きについても指示する。
*電話での問い合わせには一切応じない。
- 2月試験
令和2年2月10日(月) 午前10時予定 首里当蔵キャンパス管理棟前及び本学ホームページ
*合格者には発表と同時に文書で通知し、入学手続きについても指示する。
*電話での問い合わせには一切応じない。

Ⅷ 入学手続き

1. 期間:

- 9月試験 令和元年9月18日(水)～9月25日(水)
窓口受付時間 午前9時～午後5時(土・日、祝日を除く)
※郵送の場合は9月25日(水)午後5時までに必着のこと。
- 2月試験 令和2年2月11日(火)～2月18日(火)
窓口受付時間 午前9時～午後5時(土・日、祝日を除く)
※郵送の場合は2月18日(火)午後5時までに必着のこと。

2. 手続きの方法:

合格者は、上記の入学手続き期間内に合格通知書とともに送付する入学手続きに必要な書類を教務学生課へ提出すること。

3. 納付金(予定額)の納入:

(1) 入学料

- 9月試験 県内居住者 282,000円、その他の者 512,000円
納入期間 令和元年9月18日(水)～9月25日(水)まで
- 2月試験 県内居住者 282,000円、その他の者 512,000円
納入期間 令和2年2月11日(火)～2月18日(火)まで

(2) 授業料

- 前期分 267,900円(年額535,800円)
- 納入期間 令和2年4月1日(水)から4月30日(木)まで

※ 納入期限が、土・日曜日又は国民の祝日にあたる場合は、その翌日までに納入すること。

※ 令和2年度より、長期履修学生制度を導入予定である。詳細については、教務学生課へ確認すること。

県内居住者とは、各号のいずれかに該当する者をいう。

- (1) 入学の日(4月1日)の1年以前から引き続き県内に住所を有する者
- (2) 入学の日(4月1日)の1年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者又は1親等の親族のある者

*入学時及び在学中に金額の改定が行われた場合は、改定時から新たな金額が適用される。

*入学科及び授業料の減免について

原則として大学の学業成績の平均が2.0(良)以上の者で、かつ、次の各号の一に該当する者を対象に、全額免除又は2分の1減額の可否を審査し決定する。

- 1 天災その他不慮の災害により、学費の負担に堪えられなくなった者
- 2 生活保護法(昭和25年法律第144号)による保護を受けている者と同一世帯にある者
- 3 前項のほか、特別の事情により学費の納付が著しく困難な者

IX 過去の試験問題の公表

筆答試験、実技試験については、過去3年間の入学試験問題を本学ホームページで公表している。詳細は、教務学生課に問い合わせること。

X 入試情報の開示について

沖縄県個人情報保護条例に基づき、一般選抜試験の結果については、口頭により受験者本人が自己の入試結果の開示を請求することができる。

(1) 開示内容 当該年度の受験科目の得点または段階評価を所定の様式により開示する。

(2) 開示請求できる期間

○9月試験

令和元年10月1日(木)から令和元年11月5日(火)まで(9時から17時まで)

但し、土・日、祝日等休業となる日は除く

○2月試験

令和2年3月4日(水)から令和2年4月1日(水)まで(9時から17時まで)

但し、土・日、祝日等休業となる日は除く

(3) 開示請求の受付を行う場所

本学教務学生課

(4) 開示の方法

本人部分のみ閲覧

(5) 開示請求に必要な書類

受験票のほか、運転免許証、旅券その他官公署の発行する証明書等の一つを持参すること。

(6) 開示請求

受験者本人が、口頭で本学教務学生課に申し出ること。

(7) その他

電話による問い合わせには応じない。また、県内離島あるいは県外在住者で来学が困難な方は、沖縄県個人情報保護条例に基づく手続きが必要になる。

手続き方法については、沖縄県のホームページをご覧ください。

XI 外国人志願者に対する特別措置

外国人で入学を志願する者は、本要項に定める事項のほか、以下の定めによる。

◆出願資格

本学大学院の授業を理解できる程度の日本語能力を有すること。

◆出願手続き

1 出願書類

本要項に定める書類(5~6ページに記載)のほか、以下の書類等を提出しなければならない。

(1) 日本語の能力を証明する書類(日本語教育機関又は日本語教育のコースを有する教育機関の長又は担当教員が作成したもの。様式は自由。)

(2) 学費・生活費の負担能力を証明する書類

(3) 旅券の写し又は在留カード(もしくは外国人登録証明書)の表裏両面の写しを提出すること。(出願時に未入国の者については受験時に旅券の写しを提出する。)

2 入学手続き

入学手続きの際に、住民票の写し(又は住民票記載事項証明書)もしくは、在留カードの両面の写し(又は外国人登録証明書)を提出すること。

外国人志願者に対する特別措置について、不明な点は教務学生課に問い合わせること。

TEL 098-882-5058 FAX 098-882-5033

沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科外国人学生規程

- 第1条 沖縄県立芸術大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第35条による外国人学生のうち、造形芸術研究科（以下「研究科」という。）に属する者の取り扱いは、この規程の定めるところによる。
- 第2条 この規程で「外国人学生」とは、国、地方公共団体若しくは他の教育機関から委託された外国人又は本大学院において教育を受ける目的で入国し、本大学院に入学を許可された外国人をいう。
- 第3条 外国人学生は、研究科における教育及び研究に支障のない場合に限り、選考のうえ入学を許可する。
- 2 研究室（造形芸術研究科履修規程に定める研究室をいう。）一室あたり外国人学生は、原則として一人以内とする。
- 第4条 外国人学生の総数は、若干名とする。
- 2 外国人学生の修業年限は、2年とする。ただし、4年を越えることができない。
- 3 外国人学生の入学の時期は、年度の始めとする。
- 4 外国人学生の入学志願資格は、次の2つの条件を満たした者とする。
- (1) 学習に足る日本語の理解と表現能力を有する者
- (2) 大学院学則第9条（入学資格）に定める者
- 5 外国人学生の入学選考は、実技又は学科及び面接の入学試験によるものとする。
- 6 外国人学生として入学を志願する者は、学生募集要項に定めるもののほか、次の書類を提出しなければならない。
- (1) 日本語の能力を証明する書類
- (2) 学費・生活費の負担能力を証明する書類
- (3) 旅券の写し又は在留カード（旧外国人登録法に規定する外国人登録証明書を含む。）両面の写し
- (4) その他本研究科が必要と認める書類
- 第5条 外国人学生が修士課程を修了したときは、学位を授与する。
- 第6条 外国人学生の授業料、入学考査料及び入学料の額は、沖縄県立芸術大学授業料等の徴収条例（昭和61年沖縄県条例第2号）に定める額とする。
- 第7条 この規程に定めるもののほか、大学院学則を準用し、外国人学生に問題が生じたときは大学院運営委員会において協議する。
- 附則
この規程は、平成27年11月26日から施行する。

■ 大学院案内 ■

建学の理念

- (1) 日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容をもつものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。
- (2) 県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄の文化が造りあげてきた個性の美と、人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸、音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。
- (3) 我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がり追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

■教育理念・目標

沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科は、造形芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴や、それらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性を見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する比較芸術学、民族芸術文化学の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における造形芸術分野の幅広い実践活動を担う作家や研究者、芸術教育の専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科の教育理念・目的に沿った教育課程で成果をあげ、修士作品もしくは修士論文の審査および試験に合格し、所定の単位を取得した学生には修士（芸術）の学位が授与されます。学生が在学中に到達する目標は以下の通りです。

- 1 より幅広い視野から芸術を理解する学識を身につける。
- 2 より高い専門分野における研究能力を身につける。
- 3 専門分野における知識・技術を応用し、幅広い分野で活躍し、社会に発信する力を身につける。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、以下を目的としたカリキュラムを編成します。

- 1 学部における教養教育と専門的素養の基礎の上にたった、さらに幅広い深い技術および学識を涵養する。
- 2 造形芸術についての高度な技術および知識の育成のために、自律的に研究を進める能力を養う。
- 3 専門知識や技術を社会で活用し、新たな芸術創造の可能性を広げる应用能力を培う。

■アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

- 1 幅広い教養と造形芸術分野の専門的素養を備えているか。
- 2 専門分野の研究を行うに必要な基礎的能力をそなえているか。
- 3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

■生活造形専攻■

生活造形専攻は、工芸・デザインの2専修から成る。

1 工芸専修

染研究室は古典紅型を調査研究し、筒引き・型染の表現に於ける形態を学ぶ。顔料彩色と藍染の表現の違いを学ぶ事で適正材料の知識を得る。それを基に自己の防染法の表現方法を広げ現代に即応した創作活動、理論的な研究制作を目標とする。

織研究室は沖縄の染織技術、その他綴れ等の技法を活用した制作、琉球藍などの天然染料や素材の調査研究を行う。また、沖縄を含め日本・アジアの染織に関する調査・研究を行い、伝統的な技術の伝承や、創作性への展開も取り組む。

陶磁器研究室は器物作品制作と造形作品制作に分かれ、それぞれの専門的実技と理論を習得する。教育内容としては、一年次には素地土の調整と釉薬原料の研究など成形技術と比較焼成（黒陶・野焼）を含む実習を主眼とし、二年次は、より高度な焼成技術と加飾技法を課題として研究制作を行う。

漆工研究室では、学部での教育課程を土台とし、各自の研究テーマを中心に高度で実践的な研究を行うと共に、琉球漆芸を含む日本漆芸全体の伝統技法の研究もより深く継続していく。時代や社会をより意識し独創的な表現を探究しながら、現代社会に貢献できる人材の育成を目標とする。

2 デザイン専修

デザイン専修は、視覚伝達デザイン研究室と生活環境デザイン研究室から成る。

視覚伝達は、グラフィックデザイン、映像デザイン及び空間演出における視覚的な表現を研究領域とし、制作を通してビジュアルコミュニケーションデザインの在り方を追求する。

生活環境は、公共空間のスペースデザイン、家具、地域性に係る住居空間等のデザイン及び地域性の研究を踏まえた開発、特に製品化等の造形研究を行う。

■環境造形専攻■

環境造形専攻は、絵画・彫刻の2専修から成る。

1 絵画専修

絵画専修は、油画研究室と日本画研究室のふたつの研究領域からなる。学部での教育課程を踏まえ、高度な専門性を修練し、表現者としての個の確立と創造性を育み、社会に貢献できる人材育成を目指す。油画研究室においては、現代の絵画表現として、ドローイング、インスタレーション、映像、版表現、パフォーマンスなどを含み研究内容としている。日本画研究室においては、日本画を研究内容とし、伝統的な材料技法を踏まえ、古典から現代へ展開する動きの中で、高度な修練と表現の確立を目指す。

2 彫刻専修

彫刻専修は、学部の教育課程において培った教養と彫刻分野の専門的素養の上に立ち、それぞれの領域における学生の研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行う。その上で、将来にわたって作家などの専門家として自ら主体的に課題を創出し、独創的な表現方法の探究を継続していくための研究能力の育成を目指す。また、今日の多様な表現領域の中で特殊な材料・造形技法の分野についても高度な内容の充実を図り、それらを積極的に応用していく能力を養う。

■比較芸術学専攻■

比較芸術学専攻は、比較芸術学専修の1専修から成り、美学・芸術学研究室、美術史研究室、民族芸術文化学研究室の3つの研究室で構成されている。

1 比較芸術学専修

日本・東洋及び西洋の芸術学・美術史の比較研究を基盤として、古典から現代にわたる歴史的な視点にたち、合わせて国際的にも地域社会に対しても広い視野をもって美術を理論的に把握し、建設的な批評精神を養うことを目的とする。

また、沖縄の地域文化の特性と伝統は、日本のみならずアジア各地域の文化と比較しても極めて豊かな内容をもっている。その固有の風土によって培われた芸術文化を民族文化学、アジア工芸史、比較文化学、琉球文学及び日本文学の立場から研究することを目的とする。

■本研究科で取得できる免許状及び資格■

1 教職課程（専修免許状）

デザイン・絵画・彫刻・比較芸術学各専修においては、中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許状（美術）を、工芸専修においては、中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許状（工芸）を取得することができる。ただし、それぞれ基礎となる一種免許状（美術・工芸）を取得済みであること。

2 博物館学課程（学芸員資格）

学芸員資格を取得するには、博物館学課程所定の単位を修得しなければならない。

■ 大学院研究室担当一覧 ■

生活造形専攻	工芸専修	染研究室	名護朝和 新任教員	教授	
		織研究室	☆真栄城興茂 花城美弥子 新任教員	教授※ 准教授	
		陶磁器研究室	☆山田聡 島袋克史	教授 講師	
		漆工研究室	☆水上修 當眞茂	教授※ 准教授	
	デザイン専修	視覚伝達デザイン研究室	☆仲本賢 ☆赤嶺雅 笹原浩造 又吉浩	教授 教授 准教授 准教授	
		生活環境デザイン研究室	☆宮里武志 高田浩樹 新任教員	准教授 准教授	
	環境造形専攻	絵画専修	油画研究室	☆知花均 ☆高崎賀朗 新任教員	教授 准教授
			日本画研究室	☆平山英樹 香川亮 関谷理	教授※ 准教授 講師
彫刻専修		彫刻研究室	☆波多野泉 ☆砂川泰彦 河原圭佑 長尾恵那	教授 教授 講師 講師	
比較芸術学専攻	比較芸術学専修	美学・芸術学研究室	☆喜屋武盛也 土屋誠一	准教授 准教授	
		美術史研究室	☆尾形希和子 ☆小林純子 金恵信	教授 教授 准教授	
		民族芸術文化学研究室	☆森達也 波平八郎 鈴木耕太	教授 教授 講師	

☆は研究指導教員

※は令和3年3月退職予定者

沖縄県立芸術大学周辺略図

